

一般財団法人 かわさき市民しきん

2016 年度 事業報告書

1. 「かわさき市民しきん」の目的

当法人は、市民や企業の志のある寄付を募り、社会の課題解決や地域の活性化などの公益活動を応援し、川崎を誰もが暮らしやすく、人や命にやさしい地域にすることを目的とする。

2. 「かわさき市民しきん」が目指すもの ～「かわさき市民しきん」が目指す未来の川崎～

- ・寄付することが“自然”、“かっこいい”と思う市民が増える。
- ・市民自らの手で、川崎というコミュニティを豊かで快適にしていこうという気持ちが集う。
- ・コミュニティのなかで市民の「お金」がスムーズに循環し、自立して持続できる社会となる。
- ・寄付し、寄付されることで、市民の生活や気持ち豊かで、快適になることを市民自身が実感できる。
- ・市民が積極的にかかわり、ワクワクして、サポートしたいと感じるプロジェクトに「お金」が集まる。

3. 2016 年度を振り返って

2016 年度は 2 年目の事業となりました。

[事業支援しきんあとおし 2016]では、3 つの対象事業を選考し、寄付者が共感した事業を指定して寄付を募る活動を行ってきました。寄付総額は 1,089,619 円(目標金額 1,650,000 円、達成率 66%)となり、昨年度と比較すると対象団は 4 団体から 3 団体になり、寄付総額も減少しましたが、達成率は 35%から大きく上回ることができました。また、[事業支援しきん 2015]事業では、実際の事業を実施し、10 月に中間報告会を行いました。

[共感共鳴しきん えんたく]では、オープンミーティングを開催し、参加者から出た意見をもとに、プロトタイプ事業として「もぎたてカワサキまるかじり！」を実施することができました。専修大学のインターンシップの参加もあり、川崎の中でジモト(地元)を増やしていく取り組みとなりました。

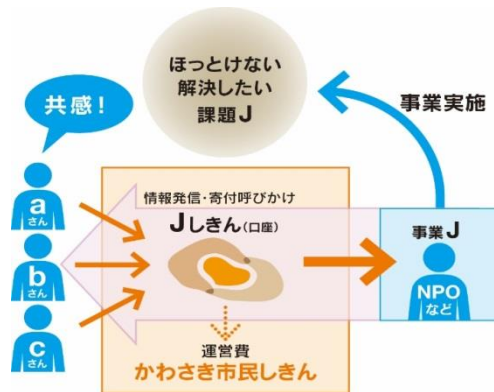
公益財団法人の申請については、2016 年 12 月に不認定の答申が出ました。不服申し立てをする予定でしたが、2017 年度再申請することにしました。

この神奈川県公益認定等審議会の決定については、「神奈川県内の公益財団法人と同じスキームの当財団の事業が何故認定されないのか、など賛成いたしかねる論点を含んでいる」ということで公益財団法人公益法人協会、公益財団法人助成財団センター、一般社団法人全国コミュニティ財団協会、認定特定非営利活動法人日本 NPO センターの 4 団体の代表者名での質問状が出ています。

4. かわさき市民しきんの主な事業内容

(1) 助成プログラムの実施

① 事業支援しきん あとおし



「川崎で今、何が必要か?」「川崎の課題は何か?」。実際に川崎市内で活動する NPO などから、今必要とされている事業を募集します。そして、「かわさき市民しきん」を通して、それを広く市民に訴えその解決策(=NPO などが行う取り組み)への寄付金を事業ごとに集めます。寄付者は支援したい事業を選んで寄付をします。集まった寄付金から運営経費(寄付金の 15%)を引き、それぞれの事業に助成します。

◆2016 年度の「あとおし」実施報告

昨年度に続き 2 回目の「あとおし 2016」を実施しました。対象事業を公募し、選考し、決定し、寄付集めをしました。

・助成対象事業の募集及び選考

募集説明会：8月2日(火)夜、8月6日(土)午前の2回 会場：高津市民館第5会議室

対象事業募集期間：8月1日～8月31日

説明会や個別相談会に来た団体は6団体でしたが、実際の応募数は3事業で、9月16日に選考委員会を開催し以下の3事業を選考し、理事会で決定しました。1事業は前年度から継続の認定 NPO 法人で、2事業の実施団体は任意団体です。

㊦「10代の子どもたちを被害者にも加害者にもしない!」中学生向け暴力防止プロジェクト

実施団体：認定 NPO 法人エンパワメントかながわ 2015年度からの継続事業

㊧ダンスの力を信じて! ダンスを通して「障がい」という垣根をなくしたい

実施団体：ダンスラボラトリー

㊨必要です! 安心の居場所 若者の悩みからスタート、ママの悩みからスタート

実施団体：スタート

・セミナー「共感を集めるファンドレイジングの計画づくり～寄付集めの7つのステップより～」

日時：2016年10月7日 講師：ファンドレイジングラボ代表 徳永洋子さん

参加者：14名(対象団体含む) 会場：高津市民館

寄付を集めるために必要な7つのステップについて、ファンドレイジングラボ代表の徳永さんにお話しいただきました。この研修会で学んだことを生かして助成対象団体とともに寄付募集計画をつくり、そして寄付ブック(カタログ)を作りました。

・あとおし 2016 ドネーションパーティ

日時：12月3日 ゲストスピーカー：NPO 法人フリースペース たまりば 理事長 西野博之さん
参加者：40 余名 会場：新城テラス

3つの対象事業が子どもに関する事業だったので、川崎市内で不登校の子どもたちの居場所づくりをしている NPO 法人フリースペースたまりば理事長西野博之さんにゲストスピーカーとし、川崎の子どもたちの今の課題を話していただきました。そのことを共通確認しながら、対象団体のプレゼンテーションそしてダンスも披露していただき、楽しい雰囲気で行うことができました。

課題としては、集客の難しさがああり、次年度以降、開催時期や開催方法などさらに検討していく必要があります。

・対象事業への寄付募集について

寄付募集期間：12月1日～3月15日

実際の時期別受付寄付額は始まりの12月が全体の35%、3月が42%となっており、1月2月の中だるみがあり、ラストスパートの3月半月で全体の42%を集めました。目標額の達成率が66%で昨年(35%)と比較するとかなり上昇しました。これは目標額そのものが昨年度と比較して低かったことも1つの要因ですが、何よりも対象団体の皆さんの寄付募集に対するモチベーションの高さ、行動力の結果、そして当財団の昨年の経験も生かされたのではないかと考えます。

	寄付金額	助成金額	目標金額	人数	達成割合
①	494,697 円	420,493 円	600,000 円	56 人	82%
②	365,186 円	310,408 円	550,000 円	42 人	66%
③	229,736 円	195,276 円	500,000 円	32 人	46%
合計	1,089,619 円	926,176 円	1,650,000 円	(130 人) *110 人	66%

*は実際の寄付者数()内は延べ人数/同じ人が複数の事業に寄付

いずれの団体も目標額には達しませんでした。助成金の範囲内で規模を若干縮小したり、自己資金や新たな寄付金などを足して、助成事業を行うことになりました。

・寄付に関する分析は別紙資料参照

・振り返りで出された意見

1人当たりの金額が昨年と比べて、高かった。寄付金額を3000円、5000円、10000円と提示したことが、わかりやすく、寄付金額を高くした一因だと思われる。

対象団体同士のコラボレーションができた。

寄付ブックが自分たちの活動の広報のツールとしてわかりやすく、とても良かった。

◆「あとおし 2015」の4事業の事業実施について

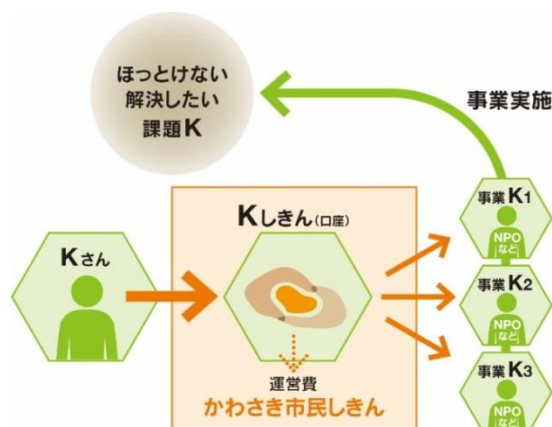
対象事業は2016年度に事業を実施しており、その中間報告会を11月17日に行いました。その段階では、まだ事業を実施していない事業もあり、「あとおし 2016」との寄付計画策定などとも時期が重なり、報告会は事業が終了した段階の最終報告会1回だけで、中間には、団体ヒアリングを行い、それを広報

する方が対象団体の負担も少なく良いという意見が多くありました。

※選考委員名簿（◎：委員長 ○：副委員長）

- 柏野晃平 公認会計士事務所アクセル、プロボクサー
◎神原 理 専修大学商学部教授
○杉原志保 NPO サポートセンター
千葉晋也 世田谷まちづくりファンド運営委員、石塚計画デザイン事務所
荻原貴之 日本政策金融公庫川崎支店
(前年度選考委員の林弘二さんが転勤のため、後任の荻原さんが就任)

②意思実現しきん いしずえ



特定の目的のための“しきん”を「かわさき市民しきん」がお預かりし、その目的のために活動するNPOなどへ助成をするプログラムです。思いを形にして残すことができたり、故人の思いを後世に伝えることもできます。名称は自由に付けることができ、助成対象やテーマを指定することができます。

- ・創業などの周年事業として、地域社会への恩返しを目的とした助成
- ・家族のご逝去にあたり、その方の志を残すための助成

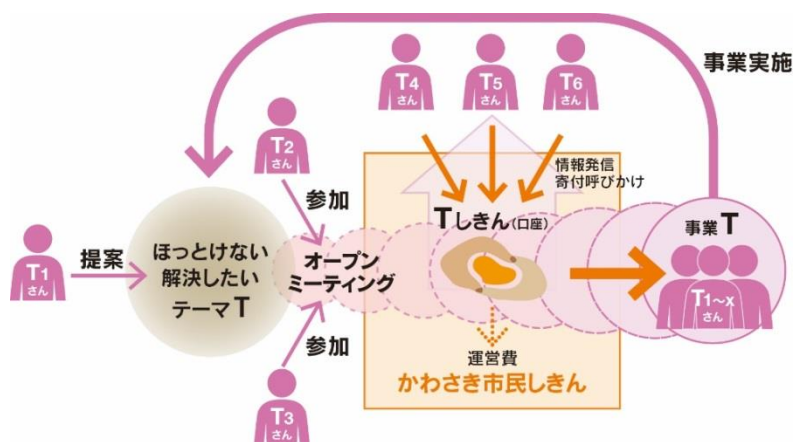
◆2016年度は50万円の寄付の申し出がありました、2017年度の助成事業として実施することになりました。

③寄付文化創造に向けて講座・セミナーの開催

広く地域の課題解決に取り組む個人や団体に向けて、下記の通り、寄付文化創造のための講座・セミナーを開催しました。

- ・セミナー「共感を集めるファンドレイジングの計画づくり～寄付集めの7つのステップより～」
10月7日開催 講師 徳永洋子さん 参加者 14名
- ・ドネーションパーティ ゲスト フリースペースたまりば 西野博之さん、あとおし 2016対象3団体
12月3日 参加者約 40名
- ・企業向けセミナー 協働型CSRマーケティング 講師 影山摩子弥さん(横浜市立大学)、長浜洋二さん(PubliCo) 参加者 33名

(2) 調査研究事業 共感共鳴しきん えんたく



独自のテーマ設定で川崎のさまざまな活動を調査・研究するプログラムです。参加者は「こども」「環境」「介護」など、川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを「かわさき市民しきん」とともに提案し、運営に関わることができます。提案者は助成に必要な資金を「かわさき市民しきん」と一緒に集め、主体的にプログラムを展開します。

◆2016年度「えんたく」の実施報告

さまざまな課題意識、興味・関心を持つ人が集まり、自分たちで始められそうな「じもと（地元）ムーブメント」を考え、議論し、発表する場である「オープンミーティング」を2回実施しました。そこから始まるプロトタイプ事業として、じもとを体感するまち歩きとして、「もぎたてカワサキまるかじり！」を11月に実施しました。専修大学の課題解決型インターンシップの学生の参加もありました。

実施内容：オープンミーティング VOL.1 の開催 4/17（参加者 20名）

VOL.2 の開催 5/14（参加者 22名）

プロトタイプ事業 川崎大師まち歩き 11/27（参加者 11名）

ここから、じもとと川崎の魅力を発信する「チームもぎたて！」が発足し、報告会は4月に実施します。

(3) その他の事業

① 寄付者獲得プロジェクト

川崎市内で趣旨説明や寄付を募る「市民しきんマーケット」の開催等を行いました。

あわせて、かわさき市民しきんが集めた寄付金の使われ方が広く見えるよう、寄付の「見える化」を推進するための「市民しきんサイト」の運営を行いました。また寄付募集のツールとして、クレジット決済のサイトが活用されています。

スケジュール：市民しきんマーケットの開催 2016年度は2回（7月と1月）

あとおしドネーションパーティーの開催 2016年12月

②寄付者定着プロジェクト

ウェブサイトやメールマガジンを通じて、活動の報告を行いました。

メールマガジンの発行 8回

③ プロボノチャレンジ KAWASAKI2016 のノウハウ移転支援

川崎市が行うプロボノ事業のノウハウ移転先として支援を受け、プロボノチャレンジ KAWASAKI2016 の事業実施団体として活動を行いました。寄付促進事業の一環として、資金以外の支援としてのプロボノを推進するためのノウハウを得ることができました。次年度以降の事業につなげていきます。

(4) 賛助会員制度

上記の事業を実施するために、趣旨に賛同する企業や個人を対象に、賛助会員制度を設けます。このような寄付を促進し、社会の課題解決や地域の活性化をしていく財団法人「かわさき市民しきん」のプログラム自体に賛同し、応援してくださる方を対象とします。

① パートナー賛助会員 年会費 50万円

企業にとっても、CSR活動や人材育成の活性化につながるよう、プログラムに様々な形で参加できる制度。

企業の人材育成＝プロボノ参加（若手、シニア社員）、協働CSRマーケティングなどの価値を、地域課題解決に取り組むNPOなどへの支援を行う中で一緒に共創します。

② 賛助会員 企業・団体 1口1万円、5口以上で賛助会員証を発行。

③ 個人会員 1口5千円

◆2016年度実績

賛助会員 4団体、24名 賛助会費 275,000円、応援寄付 678,679円 合計 953,629円

課題：団体会員は若干増え、全体としての金額も若干増えましたが、全体としては予算には達しませんでした。寄付集めは今後の課題です。